



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2025 年度 NO.2

■目次

- ・第 27 回大会開催に向けて
- ・理事会報告
- ・ワーキンググループの設置について
- ・倫理規程制定 WG
- ・支部体制・大会運営検討 WG
- ・社会連携・会員拡大 WG
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・学会表彰委員会報告
- ・企画研究委員会報告
- ・支部活動報告
(北海道支部、東日本支部、関西支部、九州支部)
- ・事務局からのお知らせ

第 27 回大会(熊本学園大学)開催に向けて

第 27 回大会は、2026 年 9 月 12 日(土)・13 日(日)の 2 日間、熊本学園大学にて対面形式で開催いたします。同大学での開催は初めてとなります。大会実行委員会は九州支部運営委員が担当いたしますので、どうぞよろしくお願い致します。最新情報については、学会ウェブサイトやメルマガ等でご案内する予定です。また、大会ホームページの開設、参加申込受付開始のご案内、「研究発表」募集のお知らせについても、随時発信を行ってまいります。大会テーマは「インターンシップの社会的価値とは～地域社会・経済への貢献～」としました。前大会で議論された「社会と共に学び、成長する」を踏まえて、あらためてインターンシップが持つ社会的な価値や意義を職業統合的学習(WIL)の観点から議論を深めてまいりたいと考えています。

今回の開催校である熊本学園大学は、1942 年(昭和 17 年)に「東洋語学専門学校」として創立され、その後 4 年制大学として熊本商科大学から熊本学園大学と発展を続け、2022 年に創立 80 周年を迎えました。現在は、附属幼稚園、附属中学・高校、大学院からなる文系総合大学です。

また、地元熊本からの 8 割の入学者を迎え、7 割の卒業生が地元就職する地域立大学として、「師弟同行」「自由闊達」「全学一家」の建学の精神のもとで、地域に根差し、世界に飛躍する人材育成に努めています。

熊本は、九州の中央部に位置し、阿蘇山や天草などの豊かな自然、温暖な気候、そして豊富な地下水があり、熊本市は政令指定都市でありながら地下水を 100%使用する「水の国」としても知られています。最近では、半導体最大手の TSMC とその関連企業の進出により、製造業を中心とした地域活性化が進んでいます。また、日本三大名城の熊本城、阿蘇地域は世界農業遺産に認定され、天草はキリシタン文化の中心地という歴史と文化を持っています。

農業県として、豊富な農畜産物があり「馬刺し・いきなり団子・太平燕、辛子蓮根」などの郷土料理が有名です。

今後のインターンシップ・職業統合的学習の更なる発展に向けた活発な議論が展開される「機会」「場」となる大会開催に向けて、会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

(第 27 回大会実行委員長 嶋田文広・熊本学園大学)

理事会報告

2025 年度 第 5 回理事会

(2026 年 3 月 2 日 *Web 会議)

第 27 回大会の開催計画及び次回総会の開催方法に続き、入退会の審査、理事選出に関する規程の改正等に関する協議を行いました。さらに、各委員会・各支部・事務局からの報告がなされました。協議の概要は次のとおりです。

(1) 第 27 回大会開催計画

嶋田実行委員長より、大会テーマ・趣旨、実施概要案などが、資料に基づき説明され、協議を行った結果、第 27 回大会開催計画案は承認されました。併せて、今後のスケジュールなど事務的な項目に関する判断は、実行委員会に一任されました。

(2) 次回総会の開催方法

伊藤事務局長より、口頭にて次回総会の開催方法について「対面開催のみ」とする提案があり、承認されました。

(3) 入退会の審査

手嶋事務局次長より、資料に基づき説明があり、3 件(個人会員 1 件、学生会員 1 件、法人・団体会員 1 件)の入会、また、2 件(法人・団体会員 2 件)の退会が承認されました。

(4) 各委員会規程

伊藤事務局長より、資料に基づき説明があり、各委員会規程については、学会ウェブサイトにて公開することが承認されました。

(5) 学会事務局の所在地

伊藤事務局長より、資料に基づいて説明があり、学会事務局の所在地を、学会業務の委託先である(株)ガリレオ学会業務情報化センター内に変更することが、承認されました。

2025年度 第6回理事会

(2026年3月20日 *書面会議)

表彰委員会及び倫理規程制定WGの役員の選任について、会長の候補者案に対し書面による表決が行われました。

(1) 学会表彰委員会委員長及び副委員長の選任について

学会表彰委員会委員長及び副委員長の選任について、表決対象者全員から承認が得られ、原案は承認されました。

(2) 倫理規程制定WG委員長及び副委員長の選任について

倫理規程制定WG委員長及び副委員長の選任について、表決対象者全員から承認が得られ、原案は承認されました。

(事務局長 伊藤文男・大阪成蹊大学)

ワーキンググループの設置について

今回、本学会における課題を検討するため、常設の委員会とは別に新しく3つのワーキンググループ(以下「WG」という)を設置しました。

具体的には、①倫理規程制定WG、②支部体制・大会運営検討WG、③社会連携・会員拡大WGの3つです。

各WGの設置の目的と検討すべき事項については、それぞれ以下のとおりとなっています。

①倫理規程制定WG

学会は学術の公共性を担い、研究の信頼性と質を保証する責務を持っています。そのため研究不正やハラスメント等を防ぐ明確な行動基準が必要であり、倫理規程は研究者コミュニティの自律的ガバナンスと社会的信頼の確保に資することとなります。

しかしながら、本学会では倫理規程が未整備であり、昨期からの課題となっていることから、早急な制定が必要となっています。

したがって、本WGで倫理規程案を作成し、理事会において決定する予定です。

②支部体制・大会運営検討WG

本学会には、支部が設置されていない地域が存在しており、同時に、既存の支部間においても規模面で大きな偏りがみられ、組織運営の観点からアンバランスな状況となっています。

また、全国大会は現在4支部(北海道、東日本、関西、九州)による輪番制で開催しているものの、各支部に求められる負

担は年々増大しており、現行の方式が最適であるかについては、再検討の余地があると考えられます。全国大会自体は、会員数の規模に対して参加者数が比較的多く、一定の成果を上げている一方で、より持続可能で魅力ある運営を行うためには、改善の可能性がまだ残されていると考えられます。

したがって、現在の4支部体制のあり方、全国大会の運営方式の改善策などについて本WGにおいて検討する予定です。

③社会連携・会員拡大WG

インターンシップは、本来、学校と産業界や地域との連携によって成立する取り組みです。しかし、現状では学会員が大学教員に偏っており、産業界や地域の関係者を十分に巻き込んでいません。本学会の持続的発展のためには、より多様な主体と協働できる体制を構築し、産学・地域連携を一層強化していく必要があります。

また、学会員数は近年横ばいの状況が続いていることから、会員の多様化を進め、新たな担い手の参画を促す取り組みが不可欠です。

これらの課題に対応するため、産業界・地域との連携のあり方や具体的な施策について検討を進めるとともに、実践的な活動を展開し、同時に、必要に応じて、他の委員会とも連携しながら、学会としての基盤強化を図っていく予定です。

(会長 亀野淳・北海道大学)

倫理規程制定WG

倫理規程制定WGは、インターンシップに関する研究活動全般を対象にした本学会の研究に関する倫理規程の制定を目的に立ち上げられたWGです。研究における不正行為は古くから存在してきましたが、それらは主に研究者間の出来事でした。近年、研究と社会との結びつきが強まることで、不正行為は広く社会の問題として認知されるようになり、本学会においても倫理規程を制定する必要性が議論されてきたことが、本WG立ち上げの背景にあります。

本WGの当面の活動目標は、次号の『インターンシップ研究年報』(第30号)の投稿案内において、会員の皆様に倫理規程を示すことにあります。WGの構成メンバーは4名と限られておりますが、現在、近接領域の学会、既に研究倫理等を制定している学会を対象に規程・綱領等の調査・収集を行っております。今後とも、ご支援の程よろしくお願いたします。

(倫理規程制定WG委員長 宮田弘一・静岡産業大学)

支部体制・大会運営検討 WG

本 WG は、今後の学会運営をより持続的なものとし、会員が参加しやすい環境を整えていくために設置されました。高橋秀幸会員（武蔵女子短期大学：北海道）、二上武生会員（工学院大学：東日本）、大串恵太会員（追手門学院大学：関西）、井本浩之会員（西九州大学：九州）、手嶋慎介会員（愛知東邦大学：事務局）、牛山佳菜代会員（目白大学・委員長）の 6 名で構成されています。

2026 年 1 月に開催した第 1 回 WG には、亀野会長も参加し、支部体制及び全国大会のあり方について論点の提示がありました。この内容を踏まえ、まず現状把握と論点整理を中心に話し合いを行いました。支部体制については、現在の体制や地域ごとの状況を確認しつつ、今後のあり方について意見交換を行いました。全国大会については、現在の運営方法や開催校の負担、引き継ぎのあり方などについて議論しました。さらに、今後の検討に向けて必要となるデータ整理や情報共有の進め方についても確認しました。

各支部の現状や特徴について共有するとともに、オンライン化の進展によって地域を越えた交流が広がっている現状についても意見交換を行いました。学会活動を継続的に進めていくためには、現状の課題を整理し、中長期的な視点で体制を検討していく必要があることを確認しました。

今後は、会員分布や大会運営状況などの整理を進め、学会活動を継続的に支えていくための体制について検討を深めていく予定です。引き続き、会員の皆さまが参加しやすい学会運営を目指して議論を重ねてまいります。

（支部体制・大会運営検討 WG 委員長 牛山佳菜代・
目白大学）

社会連携・会員拡大 WG

■目的と設立の背景

日本インターンシップ学会は創設から四半世紀を迎えましたが、近年は会員数が横ばい傾向にあります。これまで本学会は主に大学教員を中心とした学術振興団体として発展してきましたが、インターンシップをさらに進化させるためには、教育機関に所属する研究者だけでなく、産業界や行政機関、中間支援組織などとの共創が必要不可欠です。

本 WG は、学会の社会連携機能を強化し、多様なステークホルダーを巻き込んだ「産学官連携の共創の場」を構築し、結果として研究を一緒に行う会員を拡大に繋げることを目的として発足いたしました。

■WG メンバー

本 WG は、多様なバックグラウンドを持つメンバーで構成されています。亀野会長からのミッションを受け、今永会員（コー・イノベーション大学）を WG 長として、見館会員（北九州市立大学）、井崎会員（目白大学短期大学部）、若林会員（一般社団法人つばめいと／新潟大学）、安藤会員（一般社団法人ブランディングポート）が参画し、教育現場、企業人事、中間支援団体などそれぞれの視点から活発な議論を行っています。

■議論の内容：「あるべき論」からの脱却と現場への寄り添い

これまでの WG 会議では、インターンシップを取り巻く現状と学会の役割について深く議論しました。現在、採用の早期化に伴い、企業側では「1・2 年生向け」などのインターンシップに対するニーズが急速に高まっています。しかし、特に中小企業の現場では「教育的効果と採用活動を両立させるプログラムの作り方がわからない」「学生への適切な指導や接し方に悩んでいる」「良いプログラムを作っても学生が集まらない」といった切実な課題を抱えています。

これに対し、本 WG は従来の「インターンシップはこうあるべき」という固定観念から脱却する必要があるという認識を共有しました。多様化する現状を受け入れ、企業が直面している課題（設計・運営・展開）に寄り添い、ノウハウの共有や人脈形成の場を提供することが、企業や団体が学会に参加する強力なメリットに繋がります。

■今後の計画

これらの議論を踏まえ、本 WG では具体的に以下のアクションを計画・推進してまいります。

(1) 企業・団体向けプロトタイプ企画の実施

「低学年向けインターンシップの設計」などをテーマに、企業の人事担当者らが参加しやすい公開セミナーや実践ワークショップの企画を目指します。

(2) イベント情報の発信とネットワーク構築

学会員や理事が関与する良質なイベント情報を集約し、学会チャンネルを通じて定期発信する仕組みの構築を目指します。

(3) 会員区分と提供価値の見直し

企業や中間支援団体が「学会に参加することで実務に直結する知見やネットワークが得られる」と実感できるよう、法人会員制度の拡充や入会インセンティブの導入について検討を進め、理事会へ提案していきたいと考えています。

今後も、現場の実践知と学術知を結びつけ、日本のインターンシップ・ネットワークの確立を目指して活動してまいります。

(社会連携・会員拡大WG 委員長 今永典秀・
コー・イノベーション大学)

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第29号の刊行に向けて

年報編集委員会では、現在、年報第29号の編集作業を行っています。年報第29号は「研究論文の部」と「学会大会の部」の2部構成となります。

本号への投稿は、締切時点で6件(論文5件・事例報告1件)でしたが、1件が会費未納のため、これまでの対応を確認し受付不可とし、5件(全て論文)の投稿に形式審査を行い、査読を行いました。査読結果は、2026年3月27日に投稿者に伝達し、修正原稿の提出期限を2026年5月6日に設定しています。その後、再査読、年報編集委員会での協議を経て、8月に入稿、2026年10月30日の刊行を目指しています。

規程の見直しについて

現在、『インターンシップ研究年報』の研究論文・資料等投稿規程には、『インターンシップ研究年報』第29号研究論文・資料等投稿規程のように“号数”が含まれています。そのため、毎年、この規程の改訂が必須となっています。こうした状況を踏まえ、年報編集委員会では、“号数”を含まない新たな研究論文・資料等投稿規程の策定を検討しています。

『インターンシップ研究年報』第30号への投稿について

次号(『インターンシップ研究年報』第30号)への投稿の締切は、現在のところ2027年1月中旬を予定しています。投稿に関わる各種規程は、第29号に掲載するとともにHPにも掲載予定です。投稿される会員の皆さまにおかれましては、ご投稿の前に必ずこれらをご確認ください。

なお、現在検討が進められている研究倫理WGからの報告やご案内などがありました場合には、そちらも併せてご確認くださいませようございます。なお、節目となる第30号につきましては、特集を組むなど記念号としての刊行を検討しています。会員の皆様からの多くのご投稿を心よりお待ちしております。

(年報編集委員会委員長 山口圭介・玉川大学)

広報委員会報告

ニュースレターの発行、学会Webサイト・メールマガジンの配信について

広報委員会では年2回(春、秋)、ニュースレターを発行して会員の皆様に学会活動の情報をお届けしています。また、学会Webサイトやメールマガジン配信について、広報委員会では本学会に寄せられた研究会やセミナー開催案内および教員公募等、会員の皆さまにとって有益な情報を学会Webサイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。

本学会に関連する情報がございましたら、広報委員会までメールでご連絡ください(jsi.prc@gmail.com)。なお、最終的な掲載可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承ください。

学会Webサイト/メールマガジンによる情報配信の見直しについて(試験運用)

従来、Webサイトへの掲載を依頼された情報をWebサイトとメールマガジン(メルマガ)にて皆様方に配信しておりました。そのため、サイトとメルマガで情報が重複する、研究会のプログラムなどの詳細情報をメールで送られると分量が増えてポイントが分かりにくくなるということが生じておりました。そうしたことから、詳細情報はメルマガには掲載せず、Webサイトで確認いただくことで情報を的確にお伝えするような運営を、2026年3月より試験的に行ってまいります。状況を見ながら情報配信の在り方を見直して参りたいと存じますので、ご意見などを広報委員会宛(jsi.prc@gmail.com)に頂ければと存じます。

会員情報更新・アドレス連絡について

ご異動等で会員情報が変更された場合(メールアドレスや所属など)には、学会Webサイトトップページの左側メニューにある「会員情報照会・更新」アイコンから情報の更新をお願いいたします。メルマガや大切なご案内等が届かないことにもなりますので、お早目の更新をお願いいたします。

(広報委員会委員長 見目喜重・豊橋創造大学)

学会表彰委員会報告

2026年度(第20回)高良記念研究助成募集について

本学会では、2007年度からインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進に向けて「高良記念研究助成」制度を設け、優れた研究課題への研究助成を行っております。

2025年度(第19回)は、新村 拓也 会員(宮崎公立大学 地域連携・防災研究センター 特任准教授)「実践型イン

ターンシップにおける社会人基礎力自己評価の低下現象とその背景要因」、宮崎 愛弓 会員(目白大学メディア学部メディア学科 助教)「デザイン思考を取り入れたインターンシップ合同振り返りワークショップによるキャリア意識の変容とリフレクション能力の向上に関する研究」の 2 件が採択されました。

2026 年度(第 20 回)の研究助成につきましては、現在申請を募集中です。若手研究者、大学院生(年齢不問)、実務家、複数会員による共同研究の応募も歓迎いたします。学会 Web サイトに掲載されている募集要項をご確認の上、応募書類をご提出ください。多数の応募申請をお待ち申し上げます。

●応募締切:2026 年 6 月 19 日(金) 23:59

第 7 回榎本記念賞について

榎本記念賞は、初代関西支部長を務められた榎本淳子氏(元・大阪経済大学教授)からのご寄付をもとに創設されたもので、インターンシップの発展と高度化を願い、「秀逸なインターンシップ」事例の収集を目的として、2 年に 1 回の表彰を行っております。第 7 回榎本記念賞は、第 28 回大会にて表彰式を実施する予定となっております。選考対象は、大学・短大、高専、専門・専修学校、中学校・高等学校等の取り組みで、2025 年 7 月から 2027 年 6 月末までの 2 年間に各支部研究会ないし学会大会で発表された事例の中から、各支部より推薦をいただく予定です。スケジュールや評価項目などの詳細につきましては、学会 Web サイトに掲載されておりますのでご確認ください、エントリーをお願いします。

(学会表彰委員会委員長 上岡史郎・
目白大学短期大学部)

企画研究委員会報告

企画研究委員会では、現在、委員会メンバーとの意見交換を重ねながら、今後の活動内容について検討を進めております。会員の皆さまの研究関心や実践的な課題意識を踏まえつつ、学会としてどのような企画や場づくりができるかについて議論を行っているところです。また、今年度は全国大会に先立ち、企画研究委員会主催によるセミナーの実施を計画しております。セミナーでは、インターンシップをめぐる最新動向や実践知の共有、会員同士の交流につながる機会となるよう、現在内容を検討しております。詳細につきましては、内容が決定次第、学会 ML 等を通じて改めてご案内いたします。会員の皆さまにとって有意義な学びや交流の機会となるよう取り組んでまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

(企画研究委員会委員長 桑畑夏生・宮崎大学)

支部活動報告

【北海道支部】

2025 年度 第 1 回支部研究会

2026 年 3 月 8 日(日)、第 1 回北海道支部研究会を北海道大学にて開催いたしました。今年度の北海道支部のテーマは「インターンシップの現状を正確に知る」です。当日は 2 件・3 名による事例報告を行い、大学教職員および企業関係者など 18 名(対面 16 名、オンライン 2 名)にご参加いただきました。

第一報告では、公益社団法人北海道観光機構の高橋貢様および株式会社ヒト・コミュニケーションズ北海道支社の瀧川誠様より、「学生に作業をさせないインターンシップモデルの成功要因」についてご報告いただきました。観光業は北海道の基幹産業である一方、慢性的な人手不足という課題を抱えています。従来のインターンシップでは、学生が人手不足を補うために現場作業に従事するケースも見られましたが、本事例では同機構が予算を確保し、同社が企画・運営を担う体制のもと、学生に作業を課さない工夫が徹底されています。有償インターンシップとして、事前指導から事後指導まで一貫したプログラムを構築している点が特徴です。また、広域である北海道においても、現場でのトラブルに迅速に対応できる体制が整えられており、高い評価を得ています。これらの取り組みは、次年度以降も継続される予定です。

第二報告では、飛鳥未来高等学校札幌キャンパスの高橋奈妙様より、「通信制高校におけるインターンシップ」についてご報告いただきました。通信制高校は在籍者数の増加に加え、大学進学率も上昇していますが、そのインターンシップの実態については大学関係者の間でも十分に認知されておらず、先行研究も限られている分野です。本報告では、通学が困難な生徒を含む多様な背景を持つ生徒にとって、インターンシップが「社会を知る」「仕事を知る」貴重な機会となっていること、その意義や効果、具体的な取り組みについてご説明いただきました。

本研究会は、第一報告の「新たな取り組みによるインターンシップ」と、第二報告の「これまで十分に知られてこなかったインターンシップ」の双方から、新たな知見を得る貴重な機会となりました。終了後には懇親会を開催し、参加者同士の交流を深める場ともなりました。

(北海道支部支部長 原一将・札幌国際大学)

【東日本支部】

東日本支部では、2025年度の事業計画に基づき、「未来に向けて良いインターンシップを実施するために大切なことは？」をテーマに掲げ、研究会を企画・開催いたしました。

第1回研究会は、2026年2月22日に目白大学での対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。第5回榎本記念賞を受賞された東日本支部所属の大学から登壇者を迎え、実践事例の発表とパネルディスカッションを実施しました。登壇いただいたのは、名古屋産業大学の松林康博会員、岐阜大学の柴田仁夫会員、目白大学の宮崎愛弓会員、目白大学短期大学部の上岡史郎会員の4名です。より良いインターンシップの実現に向けた要素について理解を深めるとともに、大東文化大学の國府俊一郎会員による自由研究発表も行われました。

続く第2回研究会は、2026年5月21日にオンライン形式にて開催予定です。「実践型インターンシップを効果的に行うための教育プログラム設計」に焦点を当てます。宮崎大学の桑畑夏生講師と、コー・イノベーション大学の松林康博准教授をお招きし、現場知と研究知見の両面からご報告いただきます。

今後も東日本支部では、皆様に有意義な学びと交流の場を提供してまいります。引き続き、支部活動へのご支援とご参加をお願い申し上げます。

(東日本支部支部長 今永典秀・
コー・イノベーション大学)

【関西支部】

関西支部研究会について

関西支部では、2005年12月の設立以来、支部研究会は年に1回というかたちで運用しております。最近では、2025年12月12日(金)に、追手門学院大学 茨木総持寺キャンパスにおいて、第20回関西支部研究会を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。当日は、私(当時は追手門学院大学)が「産官学連携による就業体験の新たな試み—高大接続に期待される効果の観点から—」というテーマで報告したほか、井口徹郎会員(武庫川女子大学)と高橋愛満氏(同)が「企業・団体と連携した社会交流型の正課必修科目『実践学習』」というテーマで報告されました。当日は、第一報告の取り組みを大阪府立大阪ビジネスフロンティア高等学校側で担当されている阪田朋美教諭も会場に来て下さり、交流会で有意義な意見交換ができました。詳細については、ニュースレター2025.No1.(2025年12月)でお知らせしたと

おります。

2026年度も、ほぼ同じ時期に、同様の形態で関西支部研究会を開催したいと考えております。詳細が決まりましたら、学会のサイトやメールマガジンでお知らせします。また、次回のニュースレターでもお伝えする予定です。

(関西支部副支部長 伊藤文男・大阪成蹊大学)

【九州支部】

九州支部 第37回研究会

2026年4月18日(土)に『「実践」と「研究」との対話—スタートアップ支援研究会(5)—』をテーマとした第37回研究会を熊本学園大学にて、対面とオンラインの併用形式で開催しました。

開会挨拶と趣旨説明では、2022年度から始まった「スタートアップ支援研究会」は研究の入り口に立った研究歴の浅い会員の育成支援が目的であり、今回で5回目を迎えることが九州支部長の江藤智佐子会員(久留米大学・教授)から説明されました。

第1報告は、「2025年度高良記念研究助成」の中間報告として新村拓也会員(宮崎公立大学・特任准教授)から「実践型インターンシップにおける社会人基礎力自己評価の低下現象—量的分析を中心とした中間報告—」についての発表がなされました。コメントーターの江藤智佐子会員からは学術的な問いと研究目的の明確化や先行研究のさらなる検討の必要性など具体的なフィードバックがなされました。

第2報告は、平川将綺会員(中京学院大学・助教)から「企業インターンシップにおける価値共創構造のサービスの分析」と題する発表がなされました。コメントーターの眞鍋和博会員(北九州市立大学・教授)からは、一般化・汎用化に向けた具体的なプログラム設計の可能性等についてのアドバイスがなされました。

最後に吉本圭一会員(九州大学名誉教授、東京情報デザイン専門職大学客員教授)から総括・閉会挨拶として、発表者両名の探究の先には学術研究型アプローチと職業実践型アプローチがあり、異なるアプローチに固有の困難や課題が存在してはいるものの、界を越える往還による学び合いの重要性が指摘されました。

参加者は20名(対面15名+オンライン5名、うち非会員5名)でしたが、研究会終了後も今後の研究につながる活発な意見交換がなされ充実した研究会となりました。

次回(第38回)研究会は、実践型をテーマとした研究会を予定しております。

(九州支部 広報委員 渡邊 和明・鹿児島大学)

事務局からのお知らせ

2026 年度会費納入のお願い

2026 年度の会費納入につきまして、過日学会のメールマガジンにて、会員の皆さまに案内を送信させていただきました。新年度前ですが、振込は可能です。また、オンラインでの決済も可能ですので、ぜひご活用ください(学会ホームページの「会員情報照会・更新」にログイン後「オンラインクレジット決済システム」または「年会費のクレジット決済」へお進みください)。

なお、2025 年度(2025 年 7 月から 2026 年 6 月)分の会費につきましても、未納の会員の方は納入をお願いいたします。『研究年報』投稿、大会での発表には会費の納入が条件となっております。

(事務局長 伊藤文男・大阪成蹊大学)

【振込先】

・郵便口座 02750-1-108419

口座名義(「加入者名」の欄): 日本インターンシップ学会

・ゆうちょ銀行

店番 :279(当座)

口座番号:108419

口座名義:日本インターンシップ学会

*恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2025 No.2

発行日:2026(令和8)年5月29日

発行:日本インターンシップ学会 会長 亀野淳

編集:日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 見目喜重

事務局:日本インターンシップ学会事務局 事務局長 伊藤文男

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2-401

(株)ガリレオ学会業務情報化センター内

日本インターンシップ学会 学会事務局

TEL:03-5981-9824 FAX:03-5981-9852

e-mail: g035jsi-staff@ml.gakkai.ne.jp